



経営システム 工学専攻

須藤 百香さん
Momoka Suto

山形県/寒河江高校



就職
内定先

公益財団法人 日本分析センター

内定先は、環境放射能や放射線の分析や調査、研究を行う国内で唯一の公益財団法人です。志望動機は、福島原発事故等の環境や食品への調査に直接関わることができることや高度な分析スキルを持っている点です。また、安定同位体分析も実施しており、大学時代に学んだ技術を生かせる点にも非常に魅力を感じました。

Q1 学部・大学院での研究は、どんな研究に取り組みましたか？

日本で唯一稼働している液体クロマトグラフ/安定同位体比質量分析計(LC/IRMS)を改良し、その装置を用いて食品の異同識別の研究を行いました。学部時代は、116種類のはちみつを世界中から収集し、違法な添加糖の疑いがあるはちみつを識別することが出来ました。また、修士課程では、秋田の名産である日本酒の異同識別にも世界で初めて挑戦し、国内で初めてアルコール・糖類の添加識別基準を確立し、純米酒と吟醸酒、普通酒の識別に成功することができました。日本酒の研究では、読売新聞にもインタビューされ、掲載して頂きました。

Q2 6年間で印象に残っていること、エピソードは？

修士1年に経験したイタリア・ドイツの旅です。イタリアの北部のトレントにて開催された国際鑑識同位体学会に参加しました。初めての海外で、また初めての英語での発表であり、前日の夜中まで先生と一緒に発表練習しました。非常に緊張しましたが、はちみつの同位体研究の第一人者の研究者にも、英語で何とか議論することが出来ました。発表後には、地元で有名なイタリアンにてお疲れ会をしました(本場のピッツァ、最高でした)。その後、ドイツに渡り、同位体関係の世界的な研究室に訪問し、新たな課題ややるべき研究が見えてきて、さらに研究のモチベーションにもつながり、かけがえのない思い出になりました。

Q3 県立大の良いところは？

研究室配属前から研究活動を始め、興味のある研究に集中し、とことんめり込めることが出来る点です。私は、6年間研究室に在籍しましたが、国内外での学会発表や論文執筆等の非常に貴重な経験を行うことが出来ました。分析装置は世界的にも最先端なもので、かつ高額なものです。少人数教育のため、自由に使用することが出来ました。また、県立大は、秋田県内でも名前が通っており、多くの地元の企業からも好意的に研究に協力して頂くことが出来ました。年間通して、四季を感じる事が出来、様々な季節の食べ物(山菜、フルーツ、ハタハタなど)があるところも素晴らしい点です。

Q4 今後の目標・将来の夢は？

就職後は、大学時代に学んだことを活かし、さらなる分野にも挑戦し、勉強しながら一流の技術力を身に付けたいと思います。また、数年後には博士号の取得にもチャレンジしたいと考えております。

機械知能 システム学専攻

大金 健太さん
Kenta Ogane

栃木県/烏山高等学校



就職
内定先

セイコーエプソン株式会社

エプソンの理念として掲げている「省・小・精の技術」を駆使して新しい価値を創造し、常に挑戦し続けるものづくりに魅力を感じ、志望しました。また、私が行っている研究とマッチしていることから研究で培った知識を活かせるところに魅力を感じました。

Q1 学部・大学院での研究は、どんな研究に取り組みましたか？

マイクロマシンなどに用いられる薄膜材料の機械的な強度を測定するための引張試験装置を設計・開発しました。開発した試験装置を用いて、カーボンナノチューブを添加したポリイミド樹脂の引張試験を行っています。

Q2 6年間で印象に残っていること、エピソードは？

修士1年次に参加した学会で、若手優秀講演表彰を受賞したことです。設計・開発した試験装置の内容を学会で発表しました。多くの研究者の方々に自身の頑張り認められ、非常に嬉しかったです。さらに、賞を受賞したことで、研究へのモチベーションがより一層高まりました。

Q3 県立大の良いところは？

少人数教育で、先生と学生の距離が近いことや実験設備・分析機器が豊富にあるところです。この恵まれた環境により、大学生活はもちろん、研究活動も充実したものになりました。

Q4 今後の目標・将来の夢は？

エンジニアとして、人々の生活を豊かにし、社会に貢献できるものづくりを行っていきたくと思います。私生活では、現在励んでいる筋力トレーニングを続け、公私共に充実した社会人生活を送ってまいります。

特集

卒業生・修了生インタビュー

生物資源科学 専攻

河端 美玖さん
Miku Kawabata

青森県/八戸西高校



就職
内定先

秋田県庁【農学(一般)】

研究を行う中で、実際に現地に行って調査する機会も多く、秋田県の農家さんや役場の方々にたくさんお世話になりました。その中で、私自身も農業に携わる方々と一緒に働き、少しでも力になりたいと思うようになり、秋田県庁を志望しました。

Q1 学部・大学院での研究は、どんな研究に取り組みましたか？

ダイズのセシウム(Cs)吸収機構を調べる研究を行いました。東日本大震災により福島第一原子力発電所で事故が引き起こされ、農業分野では放射性Csの土壌汚染、農作物の放射能汚染が問題となっています。特にダイズはCs吸収量が多い作物として報告されており、吸収メカニズムの解明や吸収低減が求められています。このような背景から、ダイズの変異体を用いてその解明に向けて実験を進めました。

Q2 6年間で印象に残っていること、エピソードは？

大学祭実行委員会に所属し、「サツマイモとカボチャの収穫体験」を新たに企画、大学構内で栽培したことです。栽培途中でネズミが大発生し食害を受けるなど衝撃的なこともありましたが、実行委員一致団結し、地域の方々に笑顔で収穫していただきました。

Q3 県立大の良いところは？

1・2年生から本格的な研究ができる学生自主研究や農場実習など、学生主体で色々な経験ができることです。自分たちで一から考えて最後までやり遂げる過程は大変だからこそ貴重で濃密な時間でした。親身になって相談に乗ってくれた先生やサポートしてくれた職員に感謝の気持ちで一杯です!!

Q4 今後の目標・将来の夢は？

まだまだ未熟ではありますが、県職員として働く中で新しく出会う方々から、多くの事を学び吸収し、いつか農業に携わる方々に寄り添い、信頼される人になれるよう、一生懸命頑張ります。

システム科学技術研究科 Graduate School of Systems Science and Technology 生物資源科学研究科 Graduate School of Bioresource Sciences

生物資源科学 専攻

鈴木 健太さん
Kenta Suzuki

秋田県/秋田北高校



就職
内定先

アスピー食品株式会社

植物の持つ可能性を追求し、社会貢献できる仕事がしたく、就職活動を進めました。アスピー食品はスパイスとハーブを中心に扱う会社です。これらを「地の恵み」とし、より美味しい商品を開発するために植物と真摯に向き合った研究開発を行っています。そこに感銘を受け、この会社で研究活動がしたいと強く思うようになりました。

Q1 学部・大学院での研究は、どんな研究に取り組みましたか？

アカヤジオウという薬用植物が研究題材でした。この植物は漢方薬の原料で、大半を輸入に依存しています。安定供給を維持するために国産化が必要であり、その基礎となる栽培条件の解明を目的に研究しました。

Q2 6年間で印象に残っていること、エピソードは？

学生自主研究です。高校生物の授業がきっかけで、入学前から植物の培養技術に興味があり、学部1・2年次に挑戦しました。初めて行う本格的な実験は、全てが新鮮で刺激的な体験でした。研究を始めた頃、先生が初心者の方に練習用の植物を提供して下さい、基本的な技術や知識を後の研究にも活かすことができました。後になって知ったのですが、その際に先生が提供して下さいった植物が、現在研究テーマにしているアカヤジオウだったそうです。

Q3 県立大の良いところは？

学生へのサポートが非常に手厚いことです。直接担当して下さいる先生に関わらず、多岐に渡ったアドバイスを貰えます。これは、他の大学にはない恵まれた環境なのではないかと思います。先生方と過ごす時間はとても短いですが、この貴重な機会に、ぜひ納得のいくまで議論を交わして下さい。

Q4 今後の目標・将来の夢は？

スパイスやハーブの持つ可能性を追求し商品に活かすことです。私は幼い頃から植物が好きでした。好きが高じて大学では6年間も研究ができ、植物に関する仕事に就くことができました。これも、多くの人の支えがあったおかげです。今後の研究開発を通し、食卓に優れた商品を届けることで恩を返していきたいです。